

2022年8月10日(水)第二水曜祈祷会

ヨハネの福音書11:17~29

「最大の敵、死に勝つ信仰」

【背景】 *ラザロの復活…ヨハネの福音書における「第七のしるし」

- ①ベタニア村のマルタとマリヤとラザロの3人姉弟。ラザロが重い病にかかっていた。
- ②イエスさまはラザロの病気の知らせを受けてからも、その場所に二日留まられた。
- ③イエスさまはラザロの死と復活を通して、ご自身の受難と復活を重ね合わされている。

【観察と黙想】

1. 最大の敵である死(11章17~19節)

- ①ラザロの死後(埋葬後)四日は何を意味していますか。
→
- ②「ベタニアはエルサレムに近く(約3km)」とは何を意味していますか。
→
- ③最愛の弟ラザロを亡くしたマルタとマリアのところに、人々は何をしにきましたか。
→

2. マルタの信仰(20~24節)

- ①マルタはイエスさまに対してどんな信仰をもっていましたか。
→
- ②イエスさまの「あなたの姉弟はよみがえります」という言葉を、マルタはどう聞きましたか。
→
- ③この時のマルタの信仰は、「死」という現実をどう受け止めようとしていますか。
→

3. イエスはよみがえり(25~27節)

- ①イエスさまがよみがえりであり、いのちであるとはどういうことですか。
→
- ②イエスさまを信じる者にとって肉体の死は何を意味していますか。
→
- ③マルタの告白はどんな意味がありますか。
→

【適用と分かち合い】

- ①神への信仰を持たない「死」は、どのようなものですか。
- ②キリストを信じる者の「死」は、どのようなものですか。
- ③今日のところから、あなたはどんな決心に導かれましたか。